

キハダ最新最強タックル一覽

マッドバイパーファンク157 New

●強靱で粘り強さが自慢の高密度ソリッド(ムク) パワーマキシマム素材を採用、ネジレと強度に優れた3DXとX45、反発を抑え食い込みを促す総糸巻き仕上げ、強靱メタルバットなどを搭載したマッドバイパーファンクにショートタイプのファンク 157 が追加発売。スタンディングでリフトしやすいリングとなった。



■SPEC:全長1.57m、継ぎ数1本、自重695g、オモリ負荷60~250号、メーカー希望本体価格11万5000円

ゴウインブル・V

●X45とチューブラーパワーマキシマム設計が生み出す強靱なパワーと粘り、アタリの取りやすい柔軟穂先、軽量アルミシート+カーボンバットなども搭載。今回福田さんが使用したのはHHH220V。



■SPEC:全長2.20m、継ぎ数1本、自重445g、オモリ負荷80~300号、メーカー希望本体価格4万9800円

シーボーグ600MJ

●PE8号 300メートルのラインキャバ、手持ちサイズで大物が狙えるメガモンスター電動リール。メガツインプロ、マグマックスモーター、ATDなどの先進機能搭載。

■SPEC:ギア比3.6、自重970g、最大ドラグ力28kg、巻糸量(PE)5号500m、6号400m、8号300m、メーカー希望本体価格12万9000円



シーボーグ800MJ/MJS

●相模湾のキハダを始め、大物釣りには定番とも言われるリール。巻糸量PE8号 600メートルのキャバ、ダイワの最新テクノロジーをすべて搭載。

■SPEC:ギア比2.9、自重1770g、最大ドラグ力33kg、巻糸量(PE)8号600m、10号500m、メーカー希望本体価格15万円



▲キハダのタナは30メートル前後、アタリがくるまでは静かな船上

★信頼のタックルだけではなく、船長と乗船者全員の協力があってこそ釣れたチームワークの勝利だ



ROD

REEL

LINE/HOOK/WORM



▲カツオやキメジには快適メジカツオ仕掛けKS、キハダ用にはバラバリ、D-MAX剛引キハダSSを使用



▼快適リアルオキアミワームも多用



▲リアルオキアミを切り、ハリのチモトを隠して付ける方法も



◎北本さんは手持ちでじっくりとアタリを待つ

一方、ゴウインブル・Vを使用する福田さんは、「強靱で柔軟な穂先、チューブラーパワーマキシマム素材で食い込みのよさとパワーを兼ね備えています」
それぞれが使用するタックルには自信のほどがうかがえる。あとはアタリを待つばかりだ。
2時間ほどたって、そろそろ緊張感が薄れたころだった。「食った! 食った!」と突然、福田さんが雄叫びを上げた。見れば、ゴウインブルをひし曲げ、シーボーグからはジージーと糸が引き出されるヤリトリが始まっていた。



★福田さん自身の記録となる47.6キロ

ダイワテスター実約会「相模湾キハダ祭り」より最新、最強キハダタックルで福田豊起47.6キロのビッグワン THE FRONT OF OFF SHORE FISHING vol.68

キハダ最前線

at 三浦半島剣崎間口港出船

★ゴウインブルのパワーがキハダの疾走を食い止める

●相模湾のキハダ釣りは終盤戦にさしかかったところ。これからファンが注目するのはどれだけ大型が釣れるかにある。今回はダイワの大物釣りテスターらが一堂に会し、最新、最強タックルを使用して相模湾のキハダに挑戦した様様をお届けする。



▲勝利の雄叫び

三浦半島剣崎間口港、喜平治丸の乗船場に集まったのはダイワの大物釣りテスター、北本茂照、福田豊起、石塚広行、田淵雅生、それにゲストアングラの照英、晴山由梨の各氏だ。左右の舷に3人ずつ席を取り、6時に港を離れる。当日、6人が使用するタックルはいずれもダイワの最新、最強大物用製品。竿が「マッドバイパーファンク157」と「ゴウインブル・V」の2種、リールが「シーボーグ600MJ」と「シーボーグ800MJ」の2種である。

狙うは「オダモン」と言われる大型キハダ。ラインや仕掛けに関して信頼のダイワ製品で固めてある。

港を出て40分ほど走った所でカツオのナブラ発見。さっそく船長が投入合図を出す。エサにもルアーにも見向きもしない。1時間ほどで移動した先は目下、大型キハダの本命ポイントとなっている二宮沖だ。

「上から30メートルで始めてください」の合図で釣り開始。7月に発売されたばかりのマッドバイパーファンク157を使う北本さんは、「ショートタイプなので、コントロール性が自慢です。ソリッドパワーマキシマム素材ですからパワーも十分です」

間違いなくキハダである。フアーストランは約200メートル、引きが弱まったところを見計らって、渾身の巻き上げが始まる。100~200メートルを行ったり来たり、ゴウインブルのパワーで引き寄せ、シーボーグのATDドラグで強い引きをいなすヤリトリが繰り返される。

あと50メートルとなったところから、福田さんに主導権が移ってくる。40分のフアイトでもブレーカーが作動することもなく、モンスターを巻き上げたシーボーグ800MJのパワーは圧巻。そしてあと5メートルとなった、海中にボンヤリと白っぽい魚体が現れる。田淵さんがサポートし、北本さんがギャブを打つ。無事に引き上げたのは後検量47.6キロのキハダだった。

余韻に浸る福田さんを除く全員が釣り座に戻る。船長はこまめに移動しさらなる大物を目指したが、結局納竿の13時まで竿が曲がることはなかった。

価値ある1本、キハダ祭りは無事に幕を閉じたのだった。

動画連動!

★当日の迫力ある動画はダイワ船最前線のサイトでご覧いただけます。

